

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

令和元年 7月18日(木)15:30~16:30 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶

— 吉田 憲司 (館長)—

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 園田 直子 (議長)—

3. 主催事業 ICOM京都大会

ICOM (*International Council of Museums*: 国際博物館会議) は、ミュージアムの進歩発展を目的とした世界で唯一かつ最大の国際的非政府組織です。

ICOM全ての委員会が一堂に会する大会が3年に一度、世界のどこかで開催されます。2019年にはこの大会が京都で開催されることになりました。

大会期間は9月1日から約1週間。基調講演、パネルディスカッションなど全体会議の他に、国際委員会ごとのセッションや、メイン会場から離れたオフサイトミーティング、見学ツアーなどが実施されます。開催地では、博物館や文化施設、地元行政の協力のもと様々な市民向けイベントも開催されます。

ここでは、民博でのICOM関連事業をご紹介します。

— 吉田 憲司 (館長)—

4. 特別展「驚異と怪異—想像界の生きものたち」関連催し

[詳しくはこちら](#)

なぜ人類は、この世のキワにいるかもしれない不思議な生きものを思い描き、形にしてきたのか? 奇妙で怪しい、不気味だけどかわいい、世界の霊獣・幻獣・怪獣が大集合! 現代のアーティスト・漫画家・ゲームデザイナーたちによるクリーチャー制作も紹介し、妖怪やモンスターの源泉にある想像と創造の力を探ります。

関連イベントとして、実行委員長の山中由里子教授が特別展の見どころを案内する見学ツアーや、研究公演「能と怪異 (あやかし)」、ナレッジキャピタルでの連続講座など、様々な催しも盛りだくさん企画されています。

本展の催し内容をはじめ、企画途中での裏話なども飛び出すかも!?



— 山中 由里子 (学術資源研究開発センター 教授)—

4. 最新の研究紹介

「テキスト 経営人類学」

(中牧 弘允、日置 弘一郎、竹内 恵行 編/東方出版)

— 出口 正之(人類基礎理論研究部 教授)—

「ケアが生まれる場 他者とともに生きる社会のために」

(森 明子 編/ナカニシヤ出版)

[詳しくはこちら](#)

— 森 明子(グローバル現象研究部 教授)—

5. 研究の窓

亜熱帯・温帯ポリネシアにおける熱帯作物の生産のはじまり

ピーター・J・マシウスほか 12名(2019年)

タロ(サトイモ、*Colocasia esculenta*)は東南アジアから太平洋地域に、ハワイへ、イースター島へ、ニュージーランド(ポリネシア)へ、帆走カヌーで運ばれた長い歴史のある作物です。本稿はポリネシアに人々が居住をはじめた間もないころ、約600年前にさかのぼる沼地の遺跡で発見されたタロの花粉について論じます。ニュージーランドでは初期のマオリの人々による農業について、これまであまり知られていなかったため、たいへん注目を浴びています。



ニュージーランド、グレートバリア島で育つサトイモ
(2011年、マシウス撮影)

— ピーター・J・マシウス(超域フィールド科学研究部 教授)—

6. 「ストリートの精霊たち」第6回鉄犬ヘテロトピア文学賞 受賞について

[詳しくはこちら](#)

この度、本館人類基礎理論研究部の川瀬 慈 准教授が、著書「ストリートの精霊たち」で第6回鉄犬ヘテロトピア文学賞を受賞しました。

今回は、受賞内容についてご紹介します。

— 川瀬 慈(人類基礎理論研究部 准教授)—

お問い合わせ



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp